

- 18) Casey SO, Sampaio RC, Michel E, Truwit CL : Posterior reversible encephalopathy syndrome : utility of fluid-attenuated inversion recovery MR imaging in the detection of cortical and subcortical lesions. *Am J Neuroradiol* 2000 ; 21 : 1199~1206.
- 19) Pande AR, Ando K, Ishikura R, Nagami Y, Ogawa M, Kamikonya N, Kaneda Y, Tanizawa T, Nakao N : Disseminated necrotizing leukoencephalopathy following chemoradiation therapy for acute lymphoblastic leukemia. *Radiat Med* 2006 ; 24(7) : 515~519.

(17ページからつづく)

状況, ②G医師の標準予防策の遵守状況, ③G医師のMRSA保菌状況, ④G医師の気管支鏡の使用状況と取り扱い要領, ⑤手術室気管支鏡の洗浄・消毒要領, ⑥手術室気管支鏡の保管要領などについて確認した。その結果, G医師については, ①平成×年4月中旬にB病院から赴任した医師で, 現在胸部外科の医長として勤務していること, ②着任後から術中気管支鏡の使用頻度が高くなったこと, ③最近の鼻腔スワブ検査の結果MRSAは陰性であったこと, ④手袋を外した後の手洗いが不十分であることやガウンテクニックが不十分であることなどが判明した。一方で, 手術室に保管されている気管支鏡については, ⑤術後の洗浄・消毒, 保管・管理は, 手術を担当していない研修医が行うことになっており, 一次洗浄に十分時間をかけることができていないことが判明した。⑥ただし5月30日と6月5日に行った気管支鏡の菌検査では, 陰性であった。

#### 8. 再発防止のための取り組み

あなたは, 院内感染対策委員会において, 疫学調査の結果から, 再発防止のための改善策について, 短期対策と中・長期的対策とに分けてまとめて発表した。医療スタッフは, 鼻腔および手指の菌保有状況の抜き打ち検査を6ヵ月に1回の割合で受けることになったり, 定期的にグリッターバグなどを用いた手洗い状況の確認などが行われたりするようになった。気管支鏡の洗浄・消毒を担当する医師の教育, マニュアルの見直しが行われるとともに, 衛生的な保管要領についても検討された。その後, 胸部外科術後にMRSA肺炎の発生

は見られなくなった。

#### おわりに

本稿では, 院内感染事例をもとに実地疫学的手法について概説したが, 食中毒<sup>3)</sup>, 麻疹などのワクチン予防可能疾患, 病原体が確定する前の段階での感染症などさまざまな事例において, 応用可能である。また, SARS, 新型インフルエンザといった新興感染症対策, バイオテロ対策, 大規模災害時の感染症対策<sup>4)</sup>など, 感染症の国際協力の際には, 言葉の壁を乗り越えて, 同じトレーニングを受けた疫学者の共通言語として, 実地疫学的手法が用いられる。感染症の実地疫学調査を行う者には, 現場での観察力, 洞察力, 推理力, 決断力などの資質が必要であると言われており, まさに探偵家と同じセンスが求められる。その意味で欧米では, Disease Detectivesと呼称されている。これらの資質を養うためには, あのシャーロックホームズが行ったように, 過去の事例に関する膨大な知識の習得に励みつつ, 小さな事件をコツコツと解決していく努力とその習慣化が必要なのであろう。

#### 文献

- 1) 加來浩器, 岡部信彦 : 感染症の疫学調査—方法論と解析—。感染症 2003 ; 33 : 215~222.
- 2) 加來浩器 : 病院感染対策における疫学調査 : 防衛医学, 280~283, 防衛医学振興会, 2007年3月
- 3) 加來浩器 : 食中毒発生時の疫学調査 : 防衛医学, 344~346, 防衛医学振興会, 2007年3月
- 4) 加來浩器 : 災害環境と感染症(人為災害を除く) : 防衛医学, 290~292, 防衛医学振興会, 2007年3月

